

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200212		
法人名	社会福祉法人 悠仁福社会		
事業所名	グループホームヴィラ鳳凰(ほたる)		
所在地	京都府宇治市宇治里尻36番35		
自己評価作成日	令和2年12月23日	評価結果市町村受理日	令和3年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanai=true&JigyosyoCd=2691200212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	令和3年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に特養、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所、認知症対応型デイサービス、クリニック、訪問看護、訪問介護、認知症カフェを併設しており、認知症の初期から看取りまで支援ができる体制を整えている。
併設のクリニックと連携し、居宅療養管理指導を月2回実施しており、訪問診療以外でも連携を行うことで、安心したサービス提供に努めている。
本年度は楽しみの充実を目標に外出行事等に力を入れて取り組む予定であったが、新型コロナウイルスの影響により外出を控えており、事業所内においても季節を感じてもらえるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2018年4月JR宇治駅の北側に誕生した京都府初の認知症総合センターは医療支援・初期支援・在宅支援・施設入所の4つの機能を整備し、グループホームヴィラ鳳凰もその機能の一環として、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現を目指した地域の拠点として重要な役割を担っています。認知症総合センター内クリニックの3階と5階のグループホームヴィラ鳳凰では、昨今のコロナ禍の中で面会等の規制による本人・家族の不安の解消に努め、広報紙「グループホーム通信」やブログ、電話、無料通話アプリケーションなどを介して入居者の日頃の様子や生の声を届けています。満足度調査からは手厚い医療サポートに対する安堵感や外出機会の減少による筋力低下への懸念の声があり、職員全員で対応策を講じています。また法人内の教育・研修機能の充実により職員に更なるスキルアップを促し、取得した資格の専門性を日々の実践に生かして介護の質の向上に繋げています。休暇取得奨励、職員の学びに助力を惜しまない職場環境により職員はやりがいを持って働いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で理念の共有を図っている。	偶数月には法人理念「私たちは、利用者様が悠々と心穏やかに、ゆったりと過ごしていただけるように、尊敬と思いやりの心を持って支援します」を、奇数月にはスローガン「心から自然な笑顔咲かせよう」を毎朝唱和し、職員への浸透を図ると共に各職員の名札の裏にもグループ全体の方針や理念を印刷して折々目に触れるようにしている。年替わりのスローガンは各部署代表の話し合いで決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も地域の地蔵盆や行事に積極的に参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、地域行事の中止や外出を控えており、事業所内の食事行事や季節行事を工夫している。	新型コロナウイルスの発生以前と以降では環境は違い、それまでは新聞や回覧板、運営推進会議等で地域情報を得て地蔵盆や地域の祭り、文化センターでの行事への参加、認知症カフェでの地域との交流などが出来ていたが、現在は殆ど自粛・中止となり活動は停滞している。認知症総合センターとして町内会に入っているが現在はコロナ禍により地域との交流に制限がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームだけでなく、法人全体で認知症カフェの取り組みを実施し、地域住民にも参加してもらっている。また、地域の介護保険事業所や地域住民向けの研修を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回(うち2回は認知症対応型通所介護と合同)開催している。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、書面開催もあり。	2か月に1回運営推進会議を開催しているが、今年度はコロナ禍により対面で開催できたのは2回のみで、あとは書面開催である。対面の会議では面会に関する要望等が家族から寄せられている。書面開催の際は参加予定者に事前照会をしてコメントを貰っている。入居者家族にも利用状況(取り組み状況)、感染症対策、事故報告などの会議資料と議事録を送付し理解を深める工夫をしている。また、グループホームのブログからも5回分の運営推進会議議事録の閲覧が可能であり、広く一般に開示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者は運営推進会議に出席しており、議事録も提出し報告している。 また、介護相談員の訪問もあり。	コロナ感染症の発生以前は市の認知症対応型共同生活介護事業所意見交換会などに参加して連携していたが、諸会合の中止により連携の機会は減少している。運営推進会議開催時には包括支援センターと不定期ながら市職員の参加を得て随時連携している。来訪が中断している介護相談員からの手紙をリビングに貼り出したり入居者からの相談員への返信を支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3ヶ月に1回開催しており、身体拘束の事例はない。	認知症総合センター内の各部署が集まり身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3か月毎に開催する他、同センター内で職員研修を実施している。参加職員は研修報告をユニットに持ち帰って伝達している。もう一回は例年全職員向けの全体研修を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で研修に参加できなかった職員は資料をもとにレポートを提出し理解を深めている。玄関の施錠はしない方針であるが、人員配置が少ない時はやむなく施錠することもある。業務の見直しにより安全に過ごせるよう工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。事例があればグループホーム会議で検討することとしており、虐待の事例はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。入居者の中には、生前契約等決済機構を活用されている方もあり、面会を通じて繋がりを作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書について説明し、契約を締結している。 また、記載内容に変更等あれば、その都度説明し、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や請求書にご意見はがきを同封し、意見・要望等が言いやすい環境を整えている。 また、満足度アンケートを年1回実施し、その意見を改善に繋げている。	新型コロナウイルスに関する関係機関からの通知に従い面会の制限や解除をしている。 以前より家族の足が遠のいた分、電話や、無料通話アプリケーションなどによるコミュニケーションが増え、個別のやり取りが主となり、運営に関する意見までは収集できていない。ご意見箱やご意見はがきによる意見は寄せられていない。前回満足度調査では医療・介護の連携への信頼感やトイレの臭気への指摘があり、トイレ掃除の増回により改善し、結果を全入居者家族に返している。歩行能力低下を懸念する声もあり職員は改善策を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は必要な会議に出席し、意見を述べ指示を出している。 また、「京都府福祉職場 組織活性化プログラム」を活用し職員の職場に対する思いが見える化しており、所属長ヒアリングや所属長による年2回の面談を実施している。	月1回のユニット会議や随時のカンファレンスの場で、入居者の処遇に関することや食事や行事への提案、散歩や菜園・花壇の活用方法などに関する意見等を述べる機会があり、提案が取り入れられて実践に生かされている。また人事考課のヒアリングでは自身の振り返りや業務上の不安、勤務体制への提案、職員の増員希望など運営上の意見も述べている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課制度を導入している。 また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書を作成し、定期的に研修を実施している。新たに採用した職員は、プリセプターシップ制度を実施し、早期に職場になれるように、個々のレベルに合わせ指導している。また、能力評価を活用し力量を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催するグループホーム連絡会に参加し、他事業所の職員と交流や意見交換しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により開催なし。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の不安や思い、意向を取り入れたケアプラン作成や、入居前の情報や本人の様子、状態について職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族等の不安や思い、意向を聞き、概ね3ヶ月に1回モニタリングを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に入居前の情報や本人の様子、状態等を把握し、本人が環境に慣れ不安なく生活ができるサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や思いを聞き、職員本位で決定せず、本人が選択できる言葉掛けや環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	モニタリングやサービス担当者会議、普段の会話から馴染みの場所や好きだった食べ物などを聞き取り、外出行事等を提案している。また、医療面においても、家族と共に支えあう関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても以前より交流がある方と面会の機会を設けたり、家族との外出も気兼ねなくできるよう努めているが、現在新型コロナウイルスの影響により面会制限を実施しており、今年度は実施できていない。	新型コロナ感染症発生以前は宇治文化センターの催しや市役所のロビーコンサート、図書館通いなど本人の趣向に沿った支援をしていた。家族の面会も頻繁だったが、現在は電話や無料通話アプリケーション、手紙などを通しての交流が増えた。図書館にいけない方は家族が雑誌などを持参されたり、お孫さんの写真やメッセージ、友人からの手紙などで交流し、職員は返信の住所確認や投函など個々の能力に応じた支援をしている。思い出に繋がる作業の一環として門松づくりやベランダ菜園にも勤しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から共用空間で過ごされる方が多く、同じテレビを観たり、歌を歌ったり、制作活動等をして過ごされてる。 また、食事の配膳、下膳なども協力されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、特養に入所した方があり、面会に行くことがある。 また、職員間で情報共有し、スムーズにサービス提供できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやサービス担当者会議で希望や意向確認している。入浴時間や衣類選択等、本人の意見を尊重している。 また、誕生日は献立のリクエストを聞き、楽しみの充実を図っている。	センター方式のアセスメントシートに入居者情報を記入し1年ごとに更新している。介護ソフトには日々の経過記録として排泄、口腔ケア、服薬、通院時の医療上の指示や看護師の処置、レクリエーション、「関わり」欄には入居者の生の声や様子等が詳細に記録されその中から本人の思いが読み取れることも多い。経過記録にカンファレンスやモニタリング記録も記載され、入居者の全ぼう把握がしやすい書式となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基に環境整備に努めている。就寝時間など、本人の生活リズムに合わせた声掛けや、食事の嗜好や習慣等も入居前に聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを実施し、本人の能力を把握し、職員で情報共有のうえ、家事等を依頼している。 また、必要に応じて定期的にかンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月に一回モニタリングを実施し、本人、家族の意見をもとに、可能な限り意向に添ったケアや支援に努めている。	サービス担当者会議には介護職・看護師の他に本人や家族も参加し意向確認をして1年ごとに計画更新をしていたが、コロナ禍のため現在は本人参加のみで家族には電話や階下の認知症カフェなどを利用して話を聞いている。計画には介護職や医療職の役割は明記されているが、本人の楽しみや生きがいへの配慮と記載が少々希薄である。3か月に1度会議で介護計画の進捗状況を確認し、プラン変更の要否を検討している。	三大介護(食事・排泄・入浴)+医療のプランから更に本人のメンタルにも着目し、楽しみや生きがいなど生活の質を高めるプランの策定が望まれます。クリニックの音楽療法の講師や電話や手紙を下さる家族や友人も本人を支える要因のひとつとして介護計画に盛り込まれては如何でしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を残し、必要に応じて申し送りしており、カンファレンスを開催している。グループホーム会議やユニット会議でも共有、実践に繋げており、モニタリング時に提案し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全に生活できるよう靴や歩行器等の介護用品の提案や、訪問歯科の案内等を提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村が開催している行事の参加や買い物など 地域に出て行けるよう支援している。 今年度は、新型コロナウイルスの影響により、地域行事の中止や外出を控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内での訪問診療だけでなく、かかりつけ医の継続、本人の希望に沿った支援に努めている。 また、併設のクリニックと医療連携を行い、日々の健康管理も行っている。	併設クリニックの医師による月2回の訪問診療を受けている方がグループホーム内で14名あり、クリニックと兼務する看護師との連携も密で看護師からの指示や処置の記録が細かに記されている。週1回程度の看護師の夜勤、常時のオンコール体制により入居者は安心して過ごせている。またそれ以外の医療機関の診察を継続されておられる方も、家族や医療連携室との密な情報交換を通じて医療サポートは充実している。月1回の歯科衛生士の指導をもとに日々口腔ケアをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のクリニックと連携し、健康状態の把握や相談できる体制を整えている。 また、週1回程度、看護師が夜勤することで、介護職と看護職の連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、家人や医療機関と連携しており、入院中も医療機関と連携し状態把握に努めている。 また、医師と家族との話合いの場に同席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行わない方針である。 法人全体の事業所と連携し、協力できるよう取り組んでおり、入居時に方針を伝え安心して生活できるよう努めている。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」を定め、重度化や加齢により衰弱しても馴染みの関係での生活を維持し本人の望む生活を支援することを表明している。また【看取りに対する考え方】として現段階では看取りは行わない方針を示している。認知症総合センターの強みを生かしグループ全体で支援する体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。 また、緊急時の対応について学ぶ機会として、普通救命講習を開催しているが、今年度は開催なし。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対応訓練(年1回)及び避難訓練(年2回)を開催し、訓練終了後は防災教育を実施している。訓練には、地域の方も参加している。	認知症総合センター内の各部署が合同で年2回防火・防災訓練をしている。階下まで降りられる入居者やクリニックの受診者、認知症カフェ利用中の地域の方も一緒に訓練に参加している。今年度の水害訓練は机上訓練で屋上への垂直避難訓練をしている。新人職員用AED研修も実施している。また府(山城北保健所)・市役所・警察・包括支援センター・民生委員などの参加により所在不明の利用者を想定したSOS訓練も実施している。備蓄は衛生用品、缶詰、水、レトルト食品などグループホームと総合センター双方に用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育訓練計画書を作成し、施設全体で研修を開催している。 また、本人の意思を尊重し、場所を変えて話をしたり、他者に聞こえない環境で話しかけるように努めている。	例年法人の教育委員会と研修委員会でプライバシーの研修会や勉強会を行っていたが、今年度は新型コロナウイルスのため研修は中止し、資料を各部署に回し全職員が閲覧し日々のケアを振り返りレポート提出をする形を取っている。また日常的には左記以外にもトイレの見守りの際のノックやトイレ使用時の施錠など、プライバシーや個人の尊厳に配慮した支援をしている。	「認知症対応型共同生活介護介護業務手順書」はきちんと整備されプライバシー関連の記述も随所に散見されます。それらを集積し、個人情報保護とは別に入居者の尊厳に関する「プライバシーマニュアル」として追加・整備されると更に実用性が増すと思われます。ご一考を願います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思決定できるような声かけを行い、目で見て判断できる工夫等、関り方にも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位で決定することなく、本人がどのように過ごしたいか等を考慮し、必要に応じてカンファレンス等を開催している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができるよう関りを持ち、家族にも協力依頼している。 また、定期的に理美容や毛染め等の希望がないか声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食献立を伝え、食べる楽しみを持ってもらえるように努めており、配膳や下膳、食器洗いなど家事も一緒に行っている。 また、誕生日は献立のリクエストを聞き、楽しみの充実を図っている。	給食業者の献立で材料や半調理の食材が運ばれてきて、入居者の力に応じて切る・配膳・下膳・食器洗いなどを一緒にしている。ご飯はユニットで炊いている。「家庭菜園」のきゅうり・トマトなどを食材に加え季節感や鮮度も味わっている。誕生日やおやつ行事などを月3回以上、入居者の意向を聞いて食材を購入するところから取り組んでいる。その度に入居者の素敵な笑顔のブログが配信され家族等にも好評である。年2回入居者自身がメニューを選び出前を取って普段と違う食事を楽しんでいる。箸とコップは自宅で使っていた馴染みの物を使い、幅を持った時間帯でその方の生活のリズムに合わせ支援の工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作り栄養管理を行っている。 食事摂取や水分量の管理、また、自室にいつでも飲めるお茶を毎日配膳する等、本人にあった支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、必要時介助している。 入歯の調整等は個別で訪問歯科が対応している方もあり。 また、口腔衛生管理指導を行い、ケアの指導も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録により排泄状態を把握している。 また、便秘がある方は下剤を調整し、併設しているクリニックと連携している。	排泄記録で排泄パターンを把握してトイレで排泄できるように支援している。昼間はリハビリパンツや布パンツで過ごされ、夜間のみおむつをすることで安眠される方もある。頻尿の方は目覚めた時すぐにトイレ誘導し失禁による不快感を減らすようにしている。便秘の方は、薬を使わずに自然排便が出来るように大麦や寒天を食材に入れる工夫などと共にコロナ禍で外出等の運動は困難だが、ベランダの散歩や室内ゲームで腸の働きを促すような運動を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整だけでなく、おやつ提供時に寒天や食物繊維の多い食材を使用し工夫している。 毎朝の体操や散歩等、運動の機会が持てるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を実施し、入浴の声かけにより、意向確認している。 また、入浴時間や回数の意向も確認している。	入浴の午前・午後の希望や回数は入居者の希望を聞いて実施している。夏場は3回の入浴を希望される方もある。入浴の前に血圧測定をするなど健康状態に気を付けている。 シャンプーやせっけんはホームの物を使っているが、希望される方は個人持ちも可能である。一人ずつ湯を入れ替え、準備から整容迄同じ職員でゆったりと入浴を楽しまれている。 季節湯は柚子湯で利用者に喜ばれている。 入浴拒否の方は時間をずらしたり、人を変えて声をかけていたが、入居後1か月ほどたつと拒否は無くなり、気持ちよく入られるようになっている。現在同性介助を希望される方はおられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休憩ができるよう声かけを実施し、生活リズムにも注意している。 空調管理や寝具も季節にあわせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や受診時にかかりつけ医に相談している。処方の際には、薬の説明書を確認し理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園で季節の野菜を育てたり、制作活動、歌等の楽しみが持てる工夫をしている。また、本人が生活歴を考慮し、個別に支援するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、紅葉狩り等の季節を感じてもらえる行事を企画するよう努めている。	今年度は「外出の機会を増やす」予定を立てていたが、コロナ禍で、地域の行事や市の行事はなくなった。感染状況を見ながら春には近隣の公園での花見や秋には宇治川ラインの紅葉狩りに出かけた。人の出入りを見ながら、ホーム周辺を少し散歩することもある。以前入居者と行っていた日用品などの買い物も今は職員や家族のみでおこなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理を行い、ご自身の物は一緒に買いに行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話や手紙のやり取りをしており、携帯電話を持参し、家族へメールや電話をしている方もあり。充電が切れないよう支援し、操作方法についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に掃除を一緒に実施し、空調管理など環境にも配慮している。また、テレビの音量にも注意し、他者も生活しやすいよう配慮している。	リビングと居室の清掃は週1回入居者と一緒に行っているが、トイレは日に2回、リビングは食べ残しなどに気を付け随時職員が清掃をしている。リビングの壁面には入居者との共同作品が季節感を醸し出している。3階のベランダの菜園で定植・水やり・収穫を楽しんでいる。大きな時計とカレンダーで時間・日・曜日の認識を促している。リビングのテーブルは定位置に置き高さは椅子で調節をして入居者が落ち着いて座れるようにしている。大きな窓は室内の明かりを確保し、テレビを見る時などはカーテンで採光調節をしている。換気に気を付け空調や加湿器で温度・湿度調節をし、除菌脱臭機の配置により空気清浄をしている。塩素系の殺菌消毒を徹底し衛生的な環境を保っている。ソファにゆったりと座り新聞を読んだりテレビを見たりそれぞれ居心地よさそうに過ごされている入居者の姿がみられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一緒に作業したり、テレビを観たり、入居者同士の会話が生まれているように声かけし支援している。 また一人で過ごしたい方は、居室やリビングのソファで過ごしてもらうよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたダンスやテレビ、写真などを持参してもらっている。	入居時に馴染みの家具や小物等を持って来て貰えるように声をかけ、ダンスやテレビ・ハンガーラック・ご伴侶の遺影・犬のぬいぐるみ・家族や孫の写真等に込められた入居前の生活の匂いを消さないよう配慮している。 入居者にとっての居心地良さに重点を置き家族と共に本人が寛げるレイアウトの工夫をして貰っている。居室には洗面所・防災カーテン・エアコン・電動ベッドが最初から備わっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒にできることは声を掛けを実施し、環境を整えることで可能なことは、物品等の配置を工夫する等、本人に合った支援に努めている。		